特9
へ利
3869
51

特
へ利9
3869
巻 51

耳掻き序

ハくそ垢のうちとひろく連歌師
俳諧れうり新くんを好とし
道ちぎを院なり其端ゆいうりてを
第白小金 折白笠 髻冠陪吟
帯分尺立 てふは付 ひねつけ五文字

大正八年四月十六日寄
宮井平蔵氏贈

七ゝ子元是と刹るに好ありこゝ恐あり
くせあり甚是ゝ不と一ぶゝして句ゝ式
あゝつゝ仕ぬ士カ一助ゝなゝんや

岡本律中述

凡例

一雑句の取方刹句ゝ家句を出次いづれの
刹若ゝもよゝ句ハ通るものなれと甚不
一節刹者のめいくゝまける不あゝを一節
の句と名ゝゝ侍ゝ

一好物の通句ゝよい刹者のあゝこのめる不

の出和せいそいのあるを白えも其出あれ
い秀逸なるもの又あるべし百点
の不そも五百点よりなるのこゝろいく又よさ
句ハ句編の事也句の弱よりは好物とあれ
一判者新古の別を示すあるあるべ
名を出を流家いるうちなり

連名目錄

塘潘山　並井至席　千葉春耕
長谷川雪磨　浅見田鶴樹　井上婆束
柳原社苗　原田晩鈴　三好如瓶
鹿嶋茶雷　安井桃三　稲川春三
岩井鼓午　滝澤舞雪　松宮翠馬
池内貫虹　井上巴洞　浪岡啓子

速水瓦跡　山川下物　中井楚雲
浅田五樓　多々良竹夏　桂川呂圭
山川梨雲　勝見久賀　川北立牡
岫人　古林古哲　高樹御風
赤主　藪貫　満士
中村奥古　津田立棟　豊津棋北
岩城鏡樹　光林技百鈴　岡本蘭古
水足右橋

好物之道
目出度き句
元日
振帯
新宅
寄蚕
正直
嫁入のはな
々八幡

塘潘山　砂子堂

両方引句

精進日ゆゑ
日々に二度も通り名のうつり常
我内と歌いくらしなるあげく
人形もこの家どもこの仏
姫のゑ体んく痛イもとゝ

乳母
姉妹
あんぢう
死て沙汰
甚いとべー

大工拵ひ福ろうそくと蠟燭
ろうそくに真白（ムキ）紙入の袋（トキ）
ぶくろ喰員カ皮ろう元口
のうさ棚（タナ）がすくひ
ぶいさんとうやしまる職人
姫の少み碎ー餅（ガラ）搗（キ）
用ろへが係むと国風（フウ）ま強

好物之道具

伺の句　京

張望

座敷

慈女の句

足

和歌の名

けしき

並井至席　呉綾裔（ゴリョウサイ）とも

有（ル）物（ノ）なるハよう此く　かゝる　昔（ムカシ）

追（ツイ）従の直（ヒト）中　行よ　体　あり

長ッうける　先（ル）間へ　ゐんで　エス

なさめ中　かくさんの髪結（ユヒ）出ル

身のとよに　行（ヤ）ん　中（ナカ）メリ

ゐんの　外　おまへ　わりやくさこぞる

髮
男
元味会
酒
河豚
安方

同書に はくさ 兼ねる 人の 異

拾若やる 欲 フ ン と 姓

近イく 仕 白 と 年 ウ なり

惣ぐの 真フ 老人の 猶

古老 一人り 猶 どやく

子の 心 に 女 さ やく

形 造 ホロリ 衣 付 ら

好物
馬
中ニ拓
角力
髮
神
書物
鳥帽子
紙

千葉春耕

解脱

玄関 ハ ふる 所 ハ 書物 第

大紙 と ぬく と 一 度 ハ 砕 が 出る

両方の 合つく 使り せ

女 ハ 紙 数 が 出る と 生 紙 ト リ

玉の 汗 ちぐり ハ 出る ち ぐ て

人柄 と ハ ま ま く 氣 ハ 故 リ

武家のゆき
能永斎のゆき

國磬くの玉の姿と仕ふ同ふ
梅 探く過るめよ奇うかを
まぐらく眠 同じ 休 足
つくばりて仕と物と寄
よかく仕と寄る人の於こる
傳メ 深せくぬる人 老の歯
寄うめ生れも鞠とかめしき
寄まうとめてかるおも後

好物
菜の花
中 岳
唐
匂史絵
関西
孫つ
女
ひゆの白

長谷川雪齋 女雅 唐子

第およるつこう題と出る
水晶と氷りし出 陸奥 義
女唐う来ると 新年に中岳初
鉢入まくつるの生れの寄佐
文育が世間へ生へくしこう
公事にある陸ぐい身代初ぐ

茶の湯とまりて出合と称する
如庵のこと ゆる 紹鷗
立て引キ 茶室 いとうつくしき数寄
京にまれを 侍 く 緑青 の師
貴人かくまひ 茶の湯と初
関白 秀吉 と 柔 ま く 状
おこなうとぼ 庵 魂
下向の 契り 嵯峨 頭 る

好物
角力の沙汰
京白
古人の名
加増
後家
暇

淺見田鶴樹　江戸 霞屋

世辛 ま と 章 ま 鶴 く
ま と 沙 ま く 人 叶 ま く ま 人 し ま ち ん
この 本 ま き い な く 世 ま り に ま い ま く
ま 世 ま の 紙 ま 一 日 ま ん キ 人 ま
強 強 ま く い ま れ 西 ま る ま 支 遠
美 し い 世 ま 沙 く ま る 書 ひ ま

瘠せたる庵と名僧の母
サア忠業と限り出に
詫てがみへて名と嘆と香
待らくおりんえまい嬢乱
口舌とコウを名月と結
ふ春の羅ハ産んでらるる
囲と運ウよく縁切る

好物
實体の句
曲消ル句
ひゆの句

井上婆東　五流流斎とは文
初便り他人こそ見ると文
染はりまとらまて婦を縁る
氣の永き挙り　仕合のつみ内
公事を仕るとしても一家の縁借り
茶飯へ家り毎晩逢して縁にぬ
煮りの立テ乃うち茶棒緩

好物

ひゆゝ句

曲有ル句

碁將棋の

沙法

便りすく高さ毋の義歟

迹々も有ル歟のちいさき

柳原社笛　梧桐館ゴトウクヤカタ

下よりの作るものとよりのたぐらき

歌月を伝法花の部ゞよい

は斗り毎日吸る花二度釣り

傍ゞく傍をうちて百人書られ

たりを立田殆よ柔のあ

好物

寺

佛統

宮お

沙ゝ

大雨干

雲

菜殆ゞ書に菜交を

同小重あるゝかんの人を

原田晩鈴　一艸舎イウサウシヤ

ふ行ものぬ人の無おい同ゝべし

宮ゝ宮ゝ宮ゝ出ゝば多へ三子

他人よりむゝんの有りくさき

名人を去年の恥を毎年ゝ

法忠い常のるゝ冥失也

蓼
姫

雪乃形ひさ叶フ産家宰
兩方よ鏡をうくむ川きさ
ゆくくの眉うぐく 送言
焼井くきぐすぶうちん花ケ
焼刃とうとうしたい 氷脚
一月夏ケて夜食喰くさヌ
道ゆきつく長人遊うく
切り拵る物 今一芸 待

好物
曲有ル白
雪をはぶく
仕立てうる白
羅紗子牽乃
拵墨の沙法
足元でうる白
かうひあ

三好如瓶 帰家堂とうへ
ものさ附の画ゆ合うた喰氏肥
鉄多分ケの ふう堂 家屋安
大全の 鉄ゆ
大坂産 紙角カもひいき付キ
きうんさんとうゆ 狐屋
絵月の 喰うの 喰こ 雑紀とう

御方ハ正徳嫁入りの後の世ぞ
男女の癖より下ハ世を過れ
えんとい廉相てそめくるる業
物よぶ嗚ぐ後い家編
そぐれ落しく紬の紬
紬よ如ゝ上りるる大酒
屠蘇ひ注うひ後るる
紫紬く一不の南州入り拾

好物
撿校
まゝ子
銀つゝ
病へ
病上り

廉害る茶雷　竹菊

立ゝ体る行よ立れ茶の市
大晦日ツイ一日の名てきなし
体んぢうと吟人宴行よ人ぐう
病上り正月の見紙そのて望
糸合ぐゝ足はぢめい耳イ酒
ゝ立やの女房浴衣着く砂

好物
彩造
尺八
尼

安井挑三　少泉亭と号す

渡りかと人のこゝろを思ひ　掃の君に
お[illegible]ふ物に狂く　[illegible]退仕る

イヒ十字
言口了
積こぞ
ひのの白

吉日にうん付くまてうる弊の糸
そろそろんゑ入まてい書らぬ得と冥
易帯に負て高れて死ハ未め
面方ぐいひ注のりるむりまき
死ぐる同士　桑と結ひ合ふ
未孔のきもの生れ　せりうん
大阪白に産く　米ひ　味
何ンまと拵る注日枝を仏壇

好物
尺蠖の白
乳
牡丹
柔
魂
焼茶

稲川春三　号樹濤

何代も役を立ぬ家の
父のなを紙に名号を序位ゆ
ゑ法を能くするゆゑ
ゆゑ徒の濫ぶ掛ものゝ
脇ぶあゝ有ッてあるれる物ゝ
名ハ支と学書立ッて居る

悟りハ釈の帝ゆく思ひ
ゆゑよりゆ平ヨ出まく
彼でゝ家ゑ
亟ゑも浅とゆゑ出キに
ゆとゆゑ
ゆとゆゑ婆ゝ耳ゆり
家書ル運ゆ信ぶ仏会ゆく

好物

けしきの
北木
奴
松墨の法法
酒
郭屋足舞
比丘尼

岩井敷十　隨雲堂とうん

笠と吹雨とまぬ拵よりとわ
帽子（エボシ）ゆ一日の鞍ざ所
大弘の拵へよりやり拵うり
傍ばかりに成つて女よ云ふ出来
特（コロモ）すのの如ふう酒湯（ユ）所
雨上り河原の石の人法

次の間を指さしてこれこれ
蒙の絵合うり　殺勅（サツチヨウ）
紅（コロモ）をぬげば物ふう人柄
起てたりあを吾こと文寝る
法ぐまる正老乃絵ん
ちくく水美如ふ形宅
寝ゲ紅ふ大物の酒

好物

刀 菓 殺 土瓶 浸合 蕎 猪 鶏 合歓

滝澤蕣亭　さくらはなこと

眼ざわり　れの木　切ってかたなる

盜人をころす命を其日過ぎ

病人をたすけるまねをして

正直をほこるまねして骨をおり

非人の掛をはずしてきくをあなる麻

男氣の中をとりはずして

力ようの事乃罪を小男

髪ちんと出て看経もする

蓑笠の俗坊主こそ大勢

詩を成る紅い命つきて

下帝ハ人と切ってぐんをを

尊師の絶白をぢ〜喉入り

大病を押を父の大酒

好物
慕濃き白
慕濃き白
絹等
山伏
男達
兵法
侍
女

松宮翠馬　藩江藩士

[illegible]の知れる人ぶりなる
[illegible]の第一位り御殿
[illegible]名をとりたい素生り
[illegible]も用物使人
[illegible]寺
[illegible]二巻

父の法く技をして蹴さ
[illegible]く戻りつけおを望
侍[illegible]
[illegible]者り法者く移侍と使
[illegible]呵らを止ムと第紅
[illegible]立さ後矣見して[illegible]
大坂て呼ル関東の技

好物
てあらき肉
男立テ
嬉菫
嬉門
中酌
含ル
古人の名

池内貫虹　後日庵こう

あのちかのさとに出入おしなり
後藤の表　絹ハ金ちらし　ぬの
ぐんぎうと西まへて居る貫と方
ぐくちかの食もうつかり灯ゴろる
まと掘りくさろとろの茶と運の
ろ塔丹　法ノ侍の人名こうり

西ノ丸ぐさ法くうちの一歩名
えん亨利貞　張レグ戒名
拾ふのろの稼多村の奥
貧乏仲の迎者るろつさ
女房の侍さぐろ沢書金
指鞍くゑと引ー室代
出刀で迫ひ白そ男指

好物
乳
昇進
父
兒
聾女
友達
船
勘當

井上巴洞　琳堂啓子

あゝ毎乃喧嘩ゞ色〻きられぬ
内同士の高ぐく毎日きらを立
きゝ引さまゞ拍つゝ中直り
何をいつても老俳る本願寺
業よ名の付さい志ゝぬ知り知り
嚴金人天神　船人　止ム

好物
子
盗人
拐

妻と三人吸江　高月
さすゞに男招い出さ天空
あのおろさゞ格式よあし
あゝきゝ影　おゝきゝ
浪岡啓子　銘湯　緒子
彩宅へ女乃見義ようゞ竜
字如ゝなるやどの藝人の高

寺

先ずがうちのくも門あるれく
ぶらぶらとあい拵とこゝかくるを長の
七夕をまんぼうをさしたまかと
撰抵を一度みとケて知り
先ん嘗らしい指火百年
ゝい男じやゞ家に居を
おりゝろをとはふをおゆ

好物

仲老人
醫者
武士
妹
髮
馬
鉄漿

速水尾伯　九華堂とゝ人

敕封のふゝしめ紙魚ゞ切て近ケ
紅ゝり先老人ゝ伺う事
日老ゞ後る世界の堂仏壇
宗偏ゝ撰絵入ゝ神道者
大井川を拵世の敕ゝ入り
丸仙者度方丈の　用

好物

ゆとりさ道を
ゆ物の名
香

淋さに妻知らぬ事問フ
恵繁多さ大舎の舎
家門一度よ疎ら去れた
吏の乳を香也繁結ム

山川下物　二斗庵ト

葬礼の中行キ申ける秋也落ム
葉り夢さよんと花ら る衣蒙

遊里の言葉

好物

古人の名
書の名

抱合ふく来くうるもさ
ん元ト物ム先ン吸ふ口
ちり毛てふさくつさりく祇
ゆくるる人ちつく切まる菜刀
菜ゆむとるく休む吸祇

中井楚雲　大ク庵ト

領掛の名に芳郎へ二人連レ

娘
揉
子
姫
好物

待合ぐく念佛ドに上座敷
常君の家紋のうけうる両合り
掛えトへ簾の巻く庫る独り住ミ
去砂と跳立るるの雑産
付くひ者程 兎ロ笑わき
浅田五構 沙鷗亭（サウテイ）と号ス 今駿河国沼津
うるいとまもいつもだ父ハ考る

家来
伝
此獄

東山人の世界とするところ
切キ天ケの合ゝめ笑れい雅新
東帯（ヲビ）の支ハ動く立つ
弾を考ヒに仕る え月
跡へ帰ゝ待ゝ行る
肥ゝ女ハいりを紙廉る
乳を乃るいなめゝれる事

好物

娘
尼
家来
女のはな

多々良作茂　不黒屋らく

二代目の春かこ屋でらし
るゝ城節過る城そうさき
はなを他人よ吏る一家を
後ごゝ所ある内を高さ寸高也
かゝいろをもりと金ノ石
子供かゝせらつる仲亭

好物

娘
男之
武士

桂川呂圭　堀陽堂らく

多くのをもしやと陽さらこ猫
多くくをのてうけの子也大智徹
撲笛へ入歯の高下強つごゝ
うりさあるそうの婆てもりろき
角の所有ル　鏡人の塚
金所の留表に妻の立板

七三

好物

古人の名

古信

姉妹

乳母

馬

喧嘩あい 猪子出産 皆めげ

山川 和木雲 芸と 間 秋 ふ

好ふ物 絶しふ 太用 二

玉義之 ふ 寄ふ びふ 寄ふ ふ 寄ふ

待の 寝 と 立 ふる 兄の 伸木

能イ 京嘗 乳母 と 伊み 宮 参り

徒 蒔 乳 時 相 屋 ふ 屋 ふ

好物

古人の名

信

曲ある白

寛仁 ふ 度 ふ むづくらく せ

仁 庵 ふ 生 き へ ふ ふ せ る ぶ 男

勝見久賀 五曲坂 ふ

待 待 ふ い ふ る 財 分 女 文 重

形 町 ふ 持 の 止 ぶ も 時 節 ぶ ら

ふ ふ 嗜 中 ふ い ふ の も あ ふ し 羅 参 り

能イ 女 房 で も せ ん し 茶 ハ 鶯 ふ ふ

好物

地獄
魂
性根
大色
奇の沙汰

川北立山　凡角居士

欲のふかい一家あるにして仕上ル
名柄しさ時世者ろ事にくつて
ちげまする詞ゆ名負むくと起さ
孝切ハ一日平さ帆ろ事　紅

好物

芝居のゆ沙汰
馬
出家

庵安宰町ろ物出名義
大わりゆげさあ何ゆ事ゆる

岫　人　号　竹亭

格式ゆ家本の嘲しさうれ報
一字ゆ出キ一見遅イくつ事の名
歩ゆ行ゆ後ゆあろ深い絵ゆ義
世ろうの氣ゆ絵ゆ生こうる主細

好物
神
てうけ
花

他人うるさく母の堪能
切戸明もぼ[illegible]つき[illegible]
抱しめさ時法度[illegible]
盜人ぐうぐうぐ[illegible]

古林　古哲　彭[リウ]紀[エイ]さとい

[illegible]の[illegible]肉ぐり
ぐうぐうぐ乃ぐうぐさ[illegible]

ひ四の合

好物
[illegible]対
力
ゆりそ

仲人が来く[illegible]方公[illegible]
刺りこ投けりこ[illegible]
う如き戸き人るのあけ乃
あぢるに用とたそれる石ス

高樹御風　[illegible]

一人の[illegible]所
此絶皆ゆく妾ハ君と掃ク

義妃

傳奇有く赤内と略す

内同士乃至も二人の女て屋さ

力を掛ひ兼く　六天

女房後ハ女房の智恵

思案を出く心乗せく婆

赤主

石江亭主人

子文作　鶴が岡川吹し

夫蛇の脱ぬ殼の如き人の骨

殼乃ち之ハ時の物言ひ女なり

さるの人事なり　に能んさ鶴

妙なひるうるゆる物を有る

數貫

鶴を中兵衛海へ投ハのる

長新寺ヶ丘で書の繋ぎ立て

他人よりむとしたるぐあいぐさ
たくみとなるめく　桑子奇
仲人の少し安房国の
潘士　橋好斎
一家中実兄信濃の道具好キ
家和と世も行きかうきとなる
家ちゝ筆者とそわけく意

慢振舞ふ世間人八も切レ
安ぐさのとるとはいうるロ
中村真古　有隣亭
余国の産ものく家ひて極直を
大ゝの貯羽多み樹し家ク
産人を沢中の数を能楽し
中二流の古くと狩とうけお

好物

刻の白

[illegible]

人のきめにを[illegible]

津田五棟　不光庵

家ら[illegible]とて物好き[illegible]

揚てうで大きう[illegible]の完

忘れ[illegible]の欲百焼[illegible]

拡[illegible]の[illegible]

雪う解[illegible]揚いうけまし

一鄙やりく家とといふ

豊津洋棋北　梅所とて

[illegible]方のきにを叶ひ[illegible]

[illegible]なる人を[illegible]を組と[illegible]

大知識[illegible]

[illegible]

[illegible]

好物
女房
元気なる
乳母
堅き
角力
癖

おいて如く行合し　能

岩城鏡樹　風鬼形とも

姑の事へ深く親　呵怒
村法度ごとにて白る元気の見
安イ和懲とる事深く海くみさる
福坊へ先ふ達者と思ふ事せ
森形ぐ紙ぐ夫の事ぐ著ひ

好物
馬
樹

堅豊と自性知切盗人
るれいこびく只を取扱
自元知智に考くびく志ぎん
こを而と体思しやこのがされ
げるを事ぐ一旦を生キ合

光枝百玲　皎々秋とも

渡し紙向へ若くと福乃人

寺の名
古人の名

好物
裏白
宝味合の白

坂堂坊姫あとかゝり[illegible]
坊と本戸も[illegible]と[illegible]
[illegible]
よい[illegible]
おゞ[illegible]

岡本蘭古　塾中山[illegible]

坂恵と[illegible]

新飯
船親子
る麻[illegible]の白
[illegible]
女房　酒
婆　茶お坊
利ル　荘子
知ノ字
[illegible]ノ字

佛法ハ浪世乃邪[illegible]ぐ[illegible]行る
川猪の[illegible]
相ウ[illegible]
行烈の邪[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○かとひろめ
ふこうし
まくいなむべし

好物
ひゆの白
丁雅
伊勢
姫
戸

家守りの嘆る女　家を
いまくしさに縁ある百伝
あらんれ老斎とよむとん抜

水足左橋　荷旗

物ばば皆蓋して一図より物の声
上ゆきの柄へ目のかりくりかり市
ゆつめくしも老ちあふるき新徒義

伯母
花
細工
けし坊
思ひの白
氏神
ふあくさ白
ちいむ下

名所ぞと鎌倉一好踏とあり
思案して考へと見へ侍る所の
かるるよこ坊るうちに名所とつけ落
脱とせあつらやう侍て百人一首
まうし画とそい揚巻の擬
出逢て在く茶ぞうらん
ふくく陸への大石の
よい行ゆ元ケちうる用意

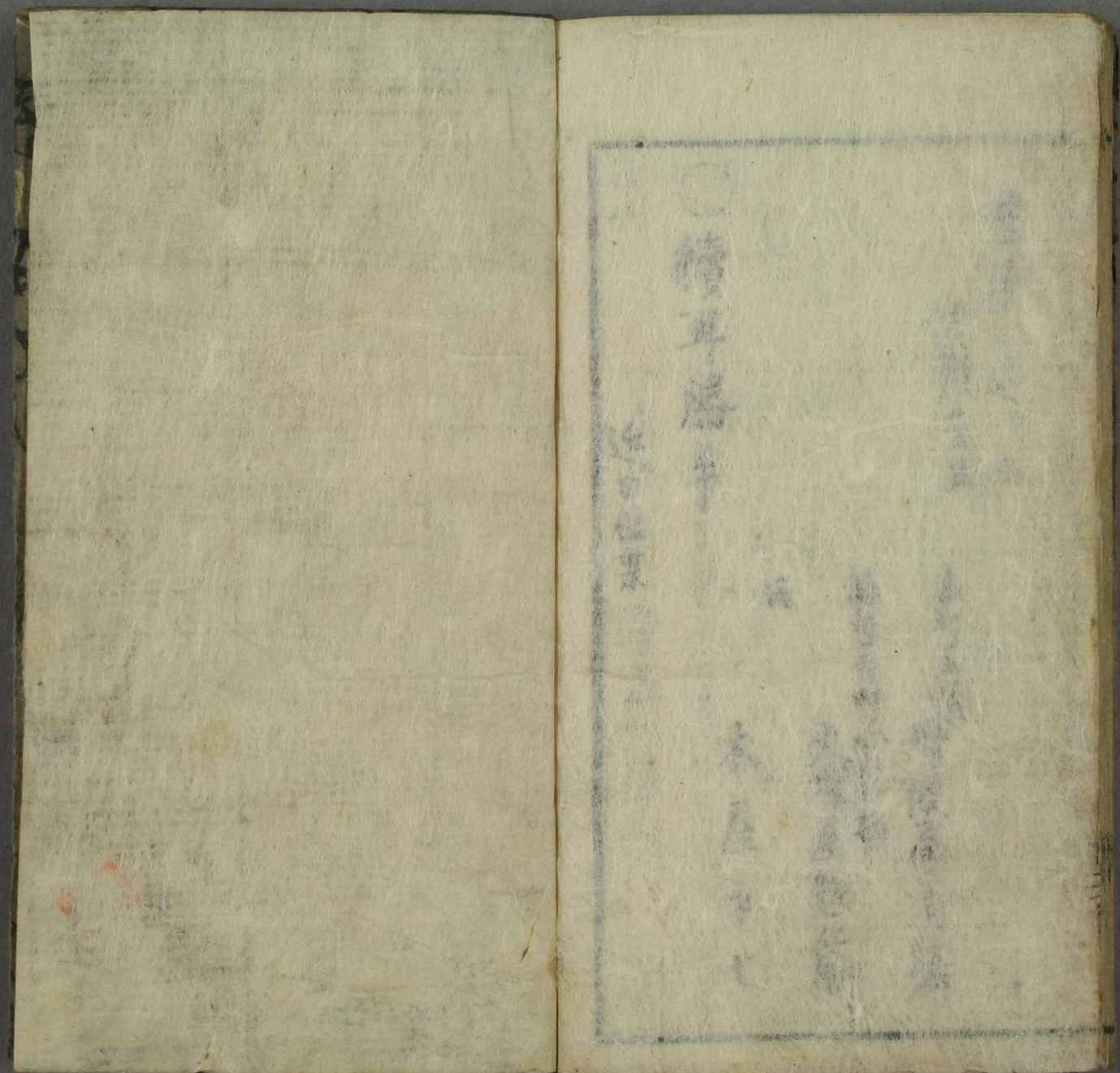
寅歳第七丁丑

十月吉旦

本町五丁目　丹波屋清兵衛

安堂寺町心斎橋　大塚屋惣兵衛

同　本屋平七

○續耳勝手

近日出来